

ポスター発表 抄録

P-1

ライフスタイルに根ざしたコミュニケーションネットワーク構築に向けた基礎研究
—GISを用いた流山市民の生活行動分析—

○林 香織〔江戸川大学〕
△土屋 薫〔江戸川大学〕

本研究におけるフィールドは、「都心から一番近い森の街」を謳う流山市である。流山市では、都市開発事業によって一度は減少した緑を、質、量の両側面から回復させようとする自然環境再生プラン、グリーンチェーン（以下、「GC」と表記）戦略という施策を都市環境整備上の重点項目に挙げている。この再生プランは、住民自身を担い手とした緑化活動を基軸としているが、担い手同士のネットワークが広がることで、市内に活発なコミュニティを生み出すことも狙いとしている。本研究の目的は、住民特性に基づいて、緑を回復させ・保全する担い手を探索することにある。

そこで市民のライフスタイルを把握するため、2008年4月、流山市内に居住する満20歳以上の男女を対象に行った。その際休日・平日に訪れる施設や移動手段などから、市民の生活行動分析を試みた。ここでは調査結果をGISで視覚化することにより、市内の“人の流れ”を明らかにする。

また、「GC」の担い手となる市民同士をつなぐ、コミュニケーションネットワークの構築を検討するための材料として、移動手段とメディア利用の関連についても併せて分析を行った。

P-2

地域にあるものを活かした遊びと学びの場づくり —谷根千地域におけるワークショップ開発とまちづくりを通して— 石幡 愛 〔東京大学大学院教育学研究科〕

近年、学校外の学びの重要性が指摘され、地域における世代を超えた学びの場づくりが各地で行われている。筆者は、2008年度から、台東区谷中、文京区根津・千駄木(通称、谷根千)界隈で、地域教育とまちづくりに関する活動「まち学」を運営してきた。これは、地元学(吉本, 2008)を基盤とし、地域内外の人々が世代や所属を超えて交流し、学び合う場をつくることで、地域の問題解決や価値創造を目指す活動である。

本研究では、実践と研究を同時に行うアクション・リサーチによって、地域教育とまちづくりを行う際のポイントを探った。筆者が2008年4月～2009年3月に記録した日誌を分析し、谷根千界隈に存在する人・物・事を整理した。また、「まち学」の様々な活動が、何をきっかけに、どのような人・物・事を資源として実現できたかを分析した。

結果、①地域に存在する人・物・事の魅力と課題を見つけること、②①で発見した資源を組み合わせ、新しい価値創造や問題解決の道筋を考えること、③情報や人が集まるネットワークのハブとギブ・アンド・テイクの関係を築くこと、④関係者からのフィードバックを得て活動を改善することが、ポイントとして抽出された。